

「外国人に買われる土地問題」

日本テンブルヴァン（株）井上 拓郎

「民泊問題」

4月13日から10月13日まで大阪夢洲（ゆめしま）で開催している大阪・関西万博。過去には1970年にも大阪で開催されましたが、その際は77カ国の参加と6、400万人を超える来場者数でした。ちなみにその年の海外からの来日客（インバウンド）は、85.4万人（法務省データ）で、前年より40%も多かったそうです。さて現在開催中の大阪万博ですが、2、820万人の来場者数を想定と開催要項にありますが、6月21日時点で約886万人と発表しており、想定を上回る来場者数となりそうです。この事は来日客の増加も影響していると思われませんが、大阪に限らず多くの外国人が日本を訪れているのは、円安やLCC（格安航空会社）の就航増加、一部の国のビザの免除などの規制緩和や民泊などの規制緩和により、宿泊先の多様化、及び増加などが要因と思われる。大勢の来日客が日本各地を訪れて、日本の文化に触れ、日本食を堪能し、日本人と触れ合い、日本のファンとなって帰国してもらいたいと思うのは私だけではない筈です。日本人のアイデンティティは礼儀

正しさや、他を思いやる心、道徳心など性善説で成り立っており、そういった部分を来日客には感じてもらいたいものです。しかし規制緩和など性善説で解釈した規制は、時として外国人には違う捉え方をされる事があります。実際にはルール上アウトでも、罰則が無い、又は緩い、捕まらない等の理由で、日本人の想定を超える行動に出る外国人がおります。来日客向けに展開する白タク行為や、居住専用マンションでの民泊展開など、都市部で問題となつている事も事実です。東京では、外国人（アジア圏）がマンション一棟を購入し、届け出を行わずに民泊を展開したり、居住されている方の家賃を倍近くに釣り上げて追い出そうとしたり、エレベーターの故障を装って稼働させず、高層階に住む高齢者の追い出しを図ったりと、日本人の想像に及ばない行動を起こしております。このケースの場合ではマンション一棟を購入し、民泊として利用しようとしておりましたが、廃寺となつたお寺や、手放そうとしている寺院を探して購入し、民泊を始めようと考えている外国人もいる様です。

「境内地の乗っ取り」

大阪市阿倍野区に天下茶屋の聖天さんと呼ばれる正圓寺と言うお寺があります。元もとは東寺真言宗のご寺院でしたが、令

和に入ってから単立となり、檀家減少、収入減少を改善するために社会福祉法人（特別養護老人ホーム）の事業を展開しようとなりました。大阪市からの補助金や独立行政法人福祉医療機構等からの借入金を手として約12億円の工事契約を結びました。が、補助金を申請する際の残高証明書類を社会福祉法人理事長でもある住職が偽造した為、補助金の交付が取り消され資金繰りが行き詰まり、敷地と建物が仮差押えとなりました。このころ債務の事を知った不動産会社役員らから、差し押さえを逃れる為に土地の所有者を変えたほうがいい、所有権はすぐに戻すとの提案を受け、移転登記した事が事件の始まりでした。その後この事件で関係した住職と不動産会社役員らは電磁的公正証書原本不実記録・同供用容疑や詐欺罪などで逮捕、起訴され、現在も移転した不動産はお寺に戻ってきておらず、転売が繰り返されていたそうです。そんな中、当該宗教法人を外国人（アジア圏）に売る話も出ていたそうです。この正圓寺ですが、6月18日に大阪地裁により破産手続き開始決定を受けた様ですので、一般会社ですと破産手続き後は法人の代表者は解任され、その法人は解散する事になります。1000年以上の歴史のあるお寺が消滅する事になります。